

平成 30 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア I・准教授
氏名 Name	小西敏夫
専門分野 Academic Field	朝鮮語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	<p>釈譜詳細、月印千江之曲及びその原典における言語表現の違いについて</p>
<p>1449年に刊行された『月印釈譜』の第18の中に、『法華経』の「薬王菩薩本事品」が翻訳された部分がある。『法華経』は、初期大乘仏教経典『サッドルマ・ブンダリーカ・ストラ』が漢訳されたものである。この『法華経』は、1463年に刊行された『法華経諺解』においても、朝鮮語に訳されている。すなわち、『法華経』の「薬王菩薩本事品」の朝鮮語訳は、『月印釈譜』第18と『法華経諺解』巻6の二つの文献に表れているのである。</p> <p>今年度は、『法華経』の「薬王菩薩本事品」の朝鮮語訳が、上の二つの文献において、どのように異なった言語表現としてあらわれているかに注目した。文字に関して言えば、『法華経諺解』の方が『月印釈譜』よりも14年後に刊行されており、『月印釈譜』において使用されていた「唇軽音 p」の文字が『法華経諺解』の方では使用されなくなっている。また、『法華経諺解』が、『法華経』の全訳であるのに対し、『月印釈譜』は、全訳ではなく、ところどころ省略された部分がある。語彙に関しては、前年度まで調べた部分に関しては、『法華経諺解』の方が、原文である漢訳の『法華経』の漢字語がそのまま使われているのに対し、『月印釈譜』の方ではそれを固有の朝鮮語に訳しているものが多かったが、「薬王菩薩本事品」に関しては、必ずしもそうとは限らなかった。『月印釈譜』の方が原文の漢字語をそのまま使っているのに対し、『法華経諺解』ではそれを固有の朝鮮語に訳している場合も多く見られた。例えば、『法華経』や『月印釈譜』の方で「号」「周遍」「現」「歡喜して」「天」「繪」「為頭」「忽然」と漢字語であらわれているものが、『法華経諺解』の方では「なまえ」「あまねくみちて」「あらわれる」「よるこび」「てん」「きぬ」「うえ」「ふいに」のように、固有の朝鮮語であらわれているのである。もちろん逆の場合も多く、『法華経』や『法華経諺解』の方で「佛壽」「寶」「油」「夜」「頭面」「善哉善哉」と漢字語であらわれているものが、『月印釈譜』の方では「ほとけのじゅみょう」「たから」「あぶら」「よる」「あたま」「よきかなよきかな」のように、固有の朝鮮語であらわれていた。また、漢訳『法華経』の「諸」が、『月印釈譜』の方では固有朝鮮語の複数接尾辞であらわれているのに対し、『法華経諺解』の方では「さまさまの」にあたる固有朝鮮語であらわれていたり、漢訳『法華経』の「今」が、『月印釈譜』の方では「いま」、『法華経諺解』の方では「きょう」と、意味の少し異なる固有朝鮮語に訳されている場合もあった。また、漢訳『法華経』の「作」が、『月印釈譜』の方では現代朝鮮語の「짓다」にあたる中期朝鮮語の形に、『法華経諺解』の方では現代朝鮮語の「만들다」にあたる中期朝鮮語の形に訳されている場合があった。統語論的に見ると、『法華経諺解』は『法華経』の直訳に近く、漢文の語順を朝鮮語の語順に変更しただけであるものがあつたが、それに対応する『月印釈譜』の方では、それにふさわしい語尾や助詞を付け加えて、より朝鮮語らしくなっているものがあつた。</p> <p>これからも、『法華経諺解』と『月印釈譜』にあらわれる言語表現について研究を続けていく予定である。</p>	